

平成 30 年度 自然災害研究協議会 北海道地区フォーラム 開催報告

「防災フォーラム 2018 室蘭」が、2019 年 3 月 1 日（金）に室蘭市にある蓬莱殿を会場として開催されました。また本フォーラムは、室蘭工業大学 環境科学・防災研究センターが主催する国際会議「Joint Seminar on Environment Science and Disaster Mitigation Research 2019（以下、JSED2019 と略記します）」のプログラムの一つである、市民参加型公開講演会との共催行事として行われました。

室蘭工業大学 環境科学・防災研究センターは、工学、社会科学・人文学などの研究分野の枠を超えて、それぞれが連携しながら、地球環境の改善と地域環境の保全に貢献するとともに、自然災害に対する防災技術や防災システムを構築することを目的として、2004 年 4 月に設立され、毎年、研究成果の研鑽、公開の場として JSED が開催されています。

室蘭工業大学環境科学・防災研究センター JSED2019

市民参加型公開講演会（防災フォーラム 2018 室蘭）

講演題目：「平成 30 年北海道胆振東部地震と北海道のテクトニクス」

講師：高橋浩晃教授（北海道大学大学院理学研究院付属地震火山研究観測センター長）

日時：2019 年 3 月 1 日（金）、13：30～14：30

場所：蓬莱殿（室蘭市）

参加者数：65 名

主催：室蘭工業大学環境科学・防災研究センター

自然災害研究協議会北海道地区部会



写真－1 講演会場－受付－



写真－2 講演会場



写真－3 高橋教授によるご講演の様子

周知のように、平成30年9月6日に北海道胆振東部地震が発生しました。高橋教授は、地震発生直後から、地震被害を把握するため、54名の研究者からなる調査組織を立ち上げ、その代表者として、「平成30年北海道胆振東部地震とその災害に関する総合調査」の題目で、文部科学省より科学研究費（特別研究促進費）の助成を受けています。今回の講演では、その調査結果の一部や北海道で起こる地震の発生メカニズムなどを、発表していただきました。また本講演会には、室蘭工業大学の教員や学生のみならず、一般市民も参加対象であるため、一般向けから専門的な話まで、多岐にわたる内容となりました。

はじめに地震被害の全容として、斜面災害、建物被害、液状化による被害の状況について、説明が行われました。また、元々国が想定していた、石狩低地東縁断層帯（南部）のマグニチュードが7.7程度以上であったにもかかわらず、今回の地震のマグニチュードが6.7と非常に小さく、想定の1/30のエネルギーしか消費されていないこと、さらにそもそもこの活断層が動いていないため、今後、もっと大きな地震が起こる可能性があるかと危惧されました。

次に、地震を知るにはテクトニクス（地球の地殻の変動）の情報が必要であり、この地殻変動から北海道で起こり得る地震の発生の原理が説明されました。北海道東部は、南東から北西方向に強く押されており、これによってひずみが蓄積し、地震が誘発されます。さらに国の発表では、北海道東部に巨大な津波をもたらす地震が切迫している可能性が高いと懸念されていることが説明されました。続いて、津波のシミュレーション、浸水地域の予測、千島海溝南部での新たな海底地殻変動観測などについて述べられ、結びとして早急な防災対策が重要であることが指摘されました。

本講演により、北海道でどのような原理で地震が発生するのかを学ぶことができ、さらに今後も巨大な地震の発生が危惧されているため、防災対策が極めて重要であることが、参加いただいた方々も、深く理解されたと感じています。

高瀬 裕也（室蘭工業大学大学院）